

会 報

70号

会報

函館の歴史的風土を守る会会報

No.70 H14. 4. 20

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社（中田）

電話(0138)51-4785

印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845



あいさつ

函館の歴史的風土を守る会会長 浜 島 国四郎

皆さんお晩でございます。今日は朝から天気で良かったと思っていれば、午後からはシタキ気味の風雪でやっばり歴風会のパーティだねとの声が聞かれる中、足下は大変だったと思いますが元気な皆さんをお迎え出来て感謝です。

恒例の私共、歴風会の函館の町並みを美しくするチャリティーパーティを、実行委員長に函館未来大学学長伊藤敬祐先生に、副実行委員長に函館FMいるかパーソナリティ 平形織子さんをお迎えし、大勢の皆さんにご支援を頂き、この様ににぎにぎしく盛大に開くことが出来ますことを心からお礼を申し上げます。

又、この不況の風の厳しい時節にも拘わらず、沢山のチャリティー商品をお寄せ頂き本当に感謝です。尚ご芳名等は、私共の機関誌で後ほど報告させていただきますのでよろしくおねがいします。

引きつづいて、日頃、函館の町並み、景観の保全に強い思いと、苦労を重ねている方々に今年度の歴風文化賞を贈りたいと思います。

さて21世紀も2年目にはいりました。

歴風会にも新しい転機が来ているのではと思っています。

先輩達の残したレールを唯走っているだけの様に

思えて反省しています。

函館には「函館らしい……」と言われる、長い間の積み重ねの中で培われた思いの刻み込まれた町並み、景観、文化、風土があります。昨今、携帯デジカメ片手に、車、自転車、そして歩いている人をよくみかけます。こうした人達には自分の周りがどう見えているのか、私には気になる時があります。忙しい人が多いんですね。

これからの函館の町、町並みはどうなるんでしょうか。

町・町並み・景観は、其処に暮らす人達が主体になって育って行くものだと思うからです。

「人が集まれば集まる程活性化する」と言うが……。大都会であればあるほど、「自分の世界」、「自分だけの世界」に閉じこもる人が増えているとも言われ、寂しい事件が多く起っています。

私達歴風会は、あくまで日常生活に目を向け、先人達の生き方に学び、継ぐことを願っています。日常的に問題を意識し、学び、その解決、発展の道を探し、その実現化の為の方法を市民と模索して行きたいと思っています。

平成13年度 歴風文化賞（第19回）

原風景 =宣言文=

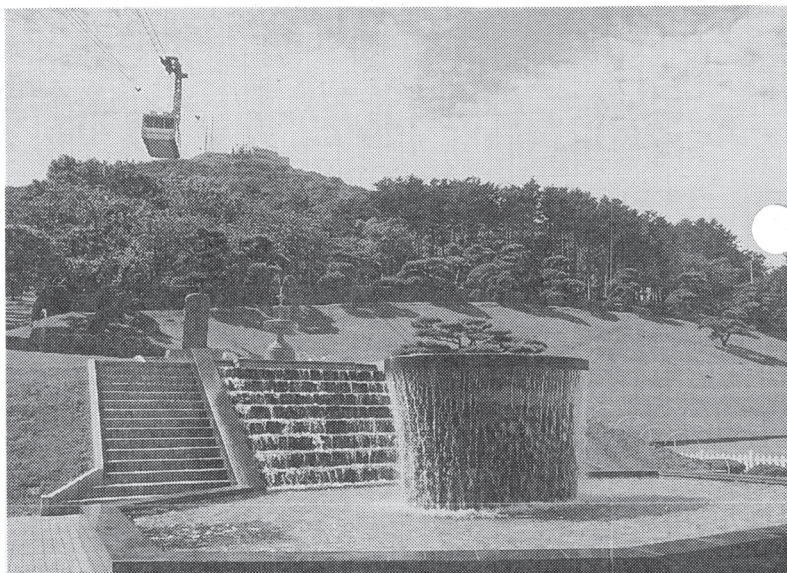
◎水元（元町配水場）

函館市元町1-4

明治22年、函館に上水道が完成した。日本人が設計した上水道では日本最古のものである。赤川の浄水場から送水され、水元に貯水された水は、西部地区一带の約2万人に供給されている。レンガ造の管理事務所は明治時代のものであり水元の長い歴史を感じさせる。

函館山の山麓に位置しており自然豊かな敷地内には、多くの動植物を四季を通してみることができ、噴水や芝生もあり市民の憩いの場となっている。

明治時代から市民に水を供給し、多くの人々に親しまれている「水元」は函館の原風景であり、ここに宣言する。



保存建築物

◎金森商船株式会社34番倉庫

函館市末広町14-

金森商船株式会社代表取締役

渡邊 兼一 様



この建物は、大正5年、鉄筋コンクリート造2階建倉庫として建築された。

金森倉庫群の西側に位置しており、1階が34番倉庫、2階が35番倉庫と呼ばれ、主に文書保管の倉庫として使われている。2階の外壁に面した荷さばき場、太い柱、正面上部の意匠等、重厚感をもつ特長的なデザインである。色彩も周囲の建造物とよく調和しており、歴史的な魅力ある空間をつくりだしている。

鉄筋コンクリート造の営業用倉庫としては市内で最も古く、西部地区における大正初期の風格のある歴史的建築物として貴重な建物である。

保存建築物

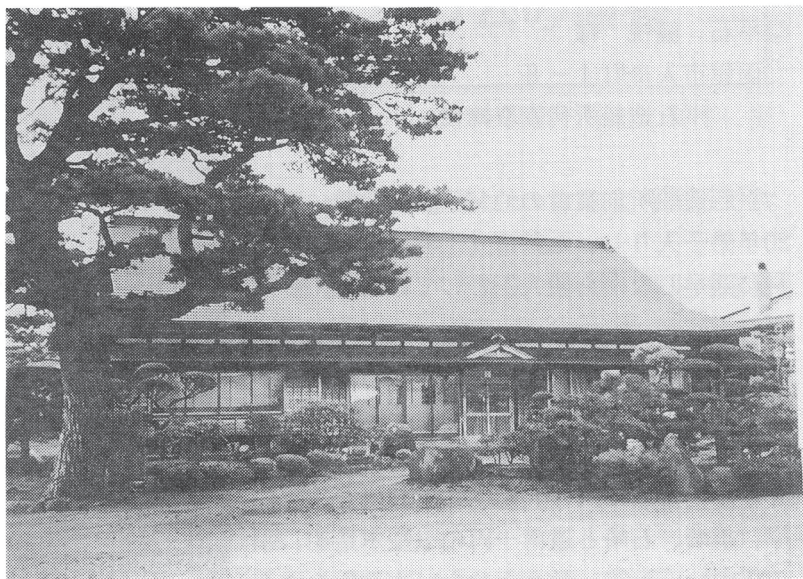
◎藤田吉廣邸

亀田郡七飯町藤城258 藤田吉廣 様

この建物は昭和3年、木造平屋建農家住宅として、七飯町の現国道5号線沿いに建築された。

建物は防寒のために窓をアルミサッシに変更しているが、全体は創建時の雰囲気をそのまま伝えている。構造体にはカツラ材が使われており、岩手の大工により建てられた。室内は太いケヤキの大黒柱、大阪障子等、創建のままの姿である。庭の樹齢200年の赤松も建物に趣を添えている。

外観、内部共に美しい姿で保存されており、函館近郊の農家住宅を考える上で数少ない貴重な建物である。



保存建築物

◎(有)井上米穀店

函館市宝来町4-12 井上 治 様

この建物は昭和10年、木造2階建の店舗併用住宅として建築された。

井上米穀店の創業は明治35年であり、今年で100年を迎える。現建物は大火後間もなく津軽の大工により建てられたものである。構造体にはヒバ材が使われており、現在でも建物の狂いがほとんどない。外観は1階が和風、2階は出窓、胴蛇腹等洋風建築の要素を取り入れている。室内は和風であり、囲炉裏や建具も創建当時のまま美しく保存されている。

大火直後に建てられ、創建当初のまま維持されており、当時の店舗併用住宅を知る上で数少ない貴重な建物である。



歴風文化賞選考基準

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ① 建物自体の貴重性。 | ④ 歴史的性。 |
| ② 持ち主が長年保存への努力を続けている。 | ⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果が大きい。 |
| ③ 景観への寄与。 | ⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。 |

個人賞

◎平石 健悦 様

函館市入舟町4-8

平石造船所代表取締役

平石造船所創業者の伯父平石仁八氏に昭和20年弟子入りし、函館市立工業高等学校建築科に通学しながら船大工としての修行に励んだ。

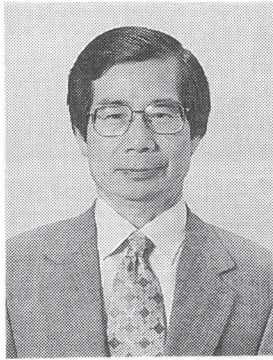
蟹工船専用の船大工として8年間母船で出漁したこともあり、船大工として60年間の長い歴史を刻んだ。最盛期には6～7人の弟子をかかえ函館市内の入船、住吉のほか、下海岸、根崎、石崎と道南一円の小型木造船、手こぎのいそ舟等、数えきれない木造船を建造した。

みちのく銀行（本店、青森）が青森市の「みちのく・北方漁業博物館」に展示するため注文した手こぎのいそ舟「寿丸」は、病気で2ヶ月中断しながらも昨年11月に完成、進水した。

今年の夏には現役船大工として最後の仕事になるかもしれない、手こぎのいそ舟「寿丸」が、津軽海峡を横断する計画もある。



（受賞者を代表して謝辞を述べる井上様）



実行委員長 伊東 敬祐

歴史のある歴風会の第24回新春チャリティパーティー実行委員長を、函館市民3年生の私がおこがましくも引き受けさせていただきました。せめてもの恩返しにと、この機会に函館の歴史と風土をあらためて勉強しよう

と思ひ、会報の「れきふう」を通読し、これまでの受賞建築物などをできるだけ見ようと思ひたちました。

函館にきて1年目は、未だ市民になりきれない旅行者の目線で、西部地区をまわったものでした。2年、
年目となると、仕事が大学のある亀田地区に移りましたし、旅行者から生活者の目線にかわって、足が中心市街から遠ざかりました。

この度は、函館市民としての生活者の目線で、西部地区をあらためて見てまわりました。週末を何日か使って、入舟町、弁天町界隈から始めて、末広町、元町、十字街界隈と、そして住吉、青柳町界隈を家内と一緒に歩きました。

あらためて函館の持っている情緒の豊かさを感じた次第です。私は生まれ育ちが東京の下町です。大学を出てから、カリフォルニア、テキサス、パリと外国をまわり、そして日本に戻って、神戸と大阪に住んで、函館に参りました。

入舟町、弁天町では、育った下町の生活臭を感じて懐かしかったです。住吉町から青柳町にかけては、神戸の町を海から山へむかって歩くときの変化が圧縮されています。元町は異国でした。古いカリフォルニア
匂いがします。面白いことに、新しい車社会のカリフォルニアが少し離れた産業道路沿いにあるのです。

私が60余年の間に移り住んだいろいろな町において、函館には車なら30分もかからない距離の中に、皆あるのです。不思議な街です。しかも、古いものでも生活の匂いがあるのです。だから1年目の旅行者の目線では気がつかなかったのに、生活者の目線で見た今回になって気がついたことがあります。受賞者を代表して挨拶された井上さんの「古い家に好き好んで住んでいる」という言葉がとても印象的でした。函館の歴史と風土の価値は、それが過去の遺物ではなく、いまの生活の中に生きていることだと思います。

不思議な町です。大切にしなきゃいけないと、あらためて思いました。実行委員長をさせていただいたお陰で、生活者としてみた函館を発見しました。ありがとうございました。（公立はこだて未来大学長）



副実行委員長 平形 織子

このたびは、第24回「函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティー」に副実行委員長として出席をさせていただき、まずはこのような機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝申し上げたいと思います。また、

会の運営に当日の進行にとご尽力下さった実行委員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

そして、平成13年度歴風文化賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

この場をお借りしてもう一度、お喜び申し上げます。

会のご挨拶の中でも申し上げましたが、私もふるさと函館の町並みをこよなく愛する市民のひとりです。学生時代4年間を故郷を離れた東京で過ごし、外からみて初めて分かるこの街の美しさを再確認いたしました。四季を通して様々な表情を見せる函館山から海岸線という曲線を描いて、扇形に広がる地形、この様な自然が与えてくれた美しさと共に、西部地区の異国情緒溢れる建造物とそれを守りつづける住民の方の心意気を感じて、生活者の視点で「やはりこの街は美しいなあ」と改めて思うのです。これから春、雪解けが進んで坂道の多い西部地区も歩きやすくなります。たまにとる趣味のカメラをもって、私も元町を闊歩し先人の残したこの街の風土を肌で感じてみたいと思います。

皆様ご存知のようにFMいるかのスタジオは今回、『原風景』に選ばれました「水元」のすぐ下に位置しています。春には桜、夏には緑の芝が広がった噴水広場で遊ぶ子どもたちの姿、秋には紅葉する木々、そして今は雪がわずかばかりとけ残って、いまかいまかと春を待つ姿を見ることができます。

毎日ガラス窓越しに広がる函館の景色を見ながら、私達スタッフは日々の放送に取り組んでいます。また、FMいるかは今年、開局10周年。これからも、この街で、この街のために放送ができることを私達は誇りとし、日々番組制作に励みたい所存です。

そんな我々住民の誇りとなる、ふるさとを函館の町並みをいつまでも大事に守りつづけたいと、私自身も今回副実行委員長を務めさせていただき、気持ちを新たにいたしました次第です。最後に、函館の歴史的風土を守る会の活動を、今後も皆様どうぞご支援下さいますよう心よりお願い申し上げます。

（FMいるかパーソナリティ）

チャリティーパーティーの運営と感想

運営委員 対馬 誠



2月14日、チャリティーパーティーを無事終了することができました。歴風文化賞授与式、パーティー自体は2時間半程で終了しますが、準備は昨年の8月から行いました。内容は各文化賞候補の選出、当日の企画・運営の検討、チャリティー商品の企業への御願い等多岐に渡っ

ていますが、運営委員全員の協力で予定通り準備を進めることができました。ただ今年度の歴風文化賞保存建築物の選出には、少し苦勞しました。数年前より市内だけでなく、近隣の町にも歴史的な建築物等があれば表彰を行っているのですが、目をつけていたこれは！と思った近隣町の歴史的な建築物の持ち主の方に文化賞を受けていただきたいと御願いしましたが断わられてしまいました。賞を受けても何も制約されることはないと言明しても、受け入れてもらえなかったことは

残念であり、こちらのアプローチの仕方が悪かったのかと反省しています。市内の文化賞候補4件については全て快く受けていただき感謝しております。

パーティーの方は不況の影響か、チャリティーオークションの提供が例年より少なかったことから、初めての試みとして「100円チャリティー」のコーナーを設けてみました。今回は運営委員だけが商品を持ち寄りましたが、40点ほど（4000円）の売り上げがありました。来年度も100円コーナーを設置したいと思っているので、会員の方で協力してくれる方は当日100円コーナーの机の上に商品を置いていただければ幸いです。会の方は、日本舞踊、モダンジャズ、〇×クイズ等で盛り上がり予定通り終了することができました。運営においては、伊東実行委員長、平形副実行委員長はじめ沢山の方の協力ありがとうございました。

今年も夏に各文化賞候補の推薦、パーティーへの意見等の用紙が全会員に送付されます。ご協力よろしく御願います。

第24回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー

平成14年2月

オークション商品協賛・提出先一覧

(敬称略)

商 社 名	〒番号	住 所
函館山ロープウェイ	040-0054	元町19-7
(株)五島軒	040-0053	末広町4-5
(株)魚長食品	040-0065	豊川町12-12
(株)だいいちフーズ	040-0054	元町15-22
(有)末広堂	040-0022	日乃出町4-6
サッポロウエシマコーヒー(株)函館支店 益井	049-0101	上磯町追分4丁目11-40
五稜郭タワー(株)	040-0001	五稜郭町43-9
ガス・コープ(株)	041-0852	鍛冶2-1-3
近藤商会(株)	041-0812	西桔梗町589-108
函館トヨペット(株) 五稜郭支店 支店長 佐藤賢司	041-0806	梁川町10-20
三菱電機ライフテック北海道(株)函館営業所所長 中條和生	041-0812	西桔梗町589-57
N H K 函館放送局 仲村氏	040-0033	千歳町13-1
キンビール北海道支社函館支店	040-0011	本町3-12東京生命函館ビル4階
内田洋行	041-0832	神山3丁目5-8
歴風会会員のみなさん		

上記は葉書で返事の来ている所や直接いただきに行った所で運営委員の把握している範囲の所です。抜けている場合があるかもしれません。お詫びも重ねてお願いいたします。

開港5都市景観まちづくり会議 新潟大会

(2001年8月17日～19日)

新潟大会の報告

函館からの参加者レポート

〔函館からの参加者〕

- ・函館の歴史的風土を守る会
- ・函館市都市建設部都市デザイン課

吉村富士男
山口 裕司
秋元 裕志

安政5年（1858年）、日米修好通商条約が締結され、函館、横浜、新潟、神戸、長崎の5港が開港された。この共通の歴史を持つことを縁に、5都市において活動している市民団体が一同に会し、交流や意見交換等易として、平成5年から「開港5都市景観まちづくり会議」が毎年1回開催されている。神戸から始まり、長崎、新潟、函館、横浜と一巡し、当地新潟において第8回の開催を迎えた。

新潟大会は、平成13年8月17日から8月19日までの3日間の日程で新潟市民芸術文化会館、昭和44年に、重要文化財に指定された新潟県議会旧議事堂（新潟県政記念館）をはじめ、新潟市内の会場において開催され、3日間とも真夏の暑い新潟となった。

1日目の全体会議は、新潟市民芸術文化会館の能楽堂を会場にアトラクションの琴演奏、仕舞を幕開けに新潟大会実行委員長の挨拶を以て始まり、郷土歴史研究家藤井誠氏の「堀と柳と新潟美人」をテーマに柳都（りゅうと）新潟の過去と未来について、ユーモアあふれる基調講演があった。

2日目は、市内の各会場において3つの分科会が開かれ函館からは全ての分科会に参加した。

第1分科会「歴史コース」では、函館からは、函館の歴史的風土を守る会の吉村富士夫氏が参加した。

在りし日の堀割と寺町の探訪をテーマにまちを歩き、その後「歴史的遺産を活かしたまちづくりを探る」と題してシンポジウムが行われ、各都市から事例が発表された。横浜では、「新潟のチューリップの花を使用して、花絵を作り成功した。」「昭和2年頃外国人向け共同住宅として建築された建物を平成元年横浜市が歴史的景観の保全を目的に取得し、建物の保全改修工事を行い、平成11年から学識経験者や地域の人々、市民団体の代表からなる山手234番館運営委員会により運営されている。」など、神戸では、「クロモリット^{注1)}により鮮やかな照明を歴史ある建造物に投影し、絵画のように見せることで街の集客に成功した。」など。また、新潟では「昭和40年頃には堀は臭くゴミもいっ

ぱいであつた。その当時、市民も行政も議論をせず堀を埋めていった。いま、その当時の反省にたつて、堀割を復元し、再生したい、という思いが市民からわき上がってきた。」などの意見が出され、熱い論議が展開された。

第2分科会「文学コース」では、函館からは函館市都市デザイン課秋元裕志が参加し、タウンウォッチングをし、秋草道人（しゅうそうどうじん）または渾斎（こんさい）と号し、すぐれた東洋美術史学者でもあり、類まれな歌人であり、また、独往の書家でもあつた「新潟の歌人會津八一」をとおして景観についてグループ討議を行った。そのグループ討議の主な意見は、「新潟市民も會津八一のことは良く知らない、もっと勉強すべきである。」「景観については、住民誰もがやれることから、始めることが大切であり、若い人も参

注2)



加できるように教育などを含めて長期的計画が必要である。」「歴史的な建物等で何を残せば良いのかを考える。」「會津八一の学規を子供にも伝えたい。」および「掘割を再生すべきだ。」などの意見が出された。

第3分科会「自然コース」では、函館から函館市都市デザイン課の山口裕司氏が参加した。

新潟景観「水の旅」をテーマに日本海と松林、早川堀、を視察し、ワークショップを行い、「水の都という新潟の歴史を踏まえて現在全てが、埋め尽くされてしまった掘割を1カ所でも復元し、歴史を活かした、まちづくりをすることが大切である。」という新潟らしい景観について提案をした。

3日目は、新潟県議会旧議事堂（新潟県政記念館）を会場として締め括りの全体会議において、各分科会からの報告がなされ、また、各都市代表者会議で決定した平成14年函館大会に大会旗を作成することおよびそのデザインが発表された。これに引き続いて、大会アピールとして「地球的環境破壊と人間性の破壊が問題になっている。環境保護と人間性豊かな暮らしが、景観まちづくりの理念のひとつ。いまこそ我々市民が主体となって、個性的な景観まちづくりについて、論議を深めなければならない。本大会に参集した5都市の市民が、見聞し、感じとったものを糧として、5都市がそれぞれ魅力あるまちづくりに努め、景観都市形成に資することを確認し、ここに宣言する。」が宣言され、最後に次期開催地である函館の吉村富士夫氏が歓迎する旨の挨拶を行い、函館での再会を誓い、開港5都市の市民団体の意識と連帯を深めた開港5都市景観まちづくり会議新潟大会は閉幕した。

おわりに、新潟大会を運営された新潟市の市民団体の熱意と御尽力に対し深く感謝の意を表したいと思います。（文責 秋元 裕志）

注1）クロモリットは、フランスのパトリス・ワルネル氏により生み出された。欧米を中心に世界の注目を集めている「光の絵画」である。建物を写真に撮り、コンピューターで彩色したスライドを作成し、それをプロジェクターで建物に投影する。

注2）新潟大会会議要項書の表紙から掲載しました。大きな瑞々しい西瓜です。（編集者）

開港5都市景観まちづくり会議

函館大会のお知らせ

実行委員会の組織づくりが平成14年2月25日(月) 14:00から市庁舎8階第3会議室で開かれました。

①組織

市民団体が中心、事務局は函館市都市建設部
都市デザイン課

②委員長団の選出

委員長 浜 島 國四郎（歴風会代表）

副委員長 小 林 敏 夫

（元町倶楽部より1名）

そ の 他 （若干名）

③開催日予定

平成14年10月18日(金)～20日(日)

④開催

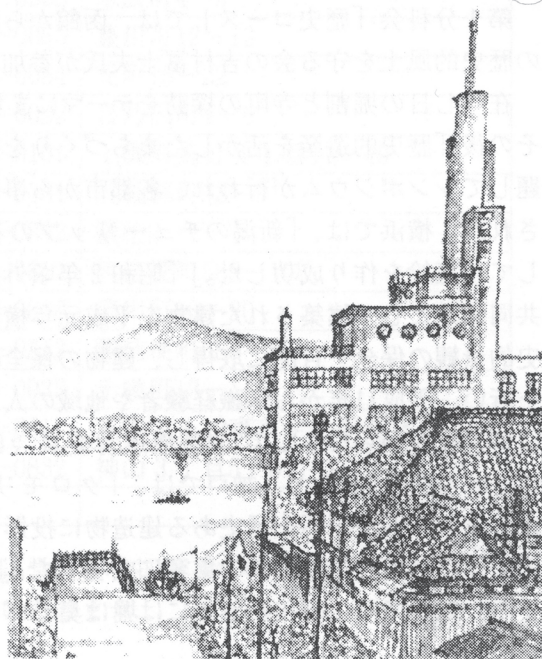
開催については(社)日本建築美術工芸協会の「2002aaca景観シンポジウム函館開催」の景観シンポジウムやフォーラムとの合同を視野に入れる。

⑤今後の大会詳細について

小委員会を組織しそこで検討する

メンバーは

歴 風 会	吉村富士夫
元町倶楽部	未 定
伝 建 会	小林 敏夫
杉松柏商店街連合会	石黒 哲三
十字街商盛会	若山 直



「函館の未来を考える」プレ・シンポジウムの報告

函館のここ10年来には、あまりにも大きな変化が感じとられる。とくに函館の歴史や景観、函館を象徴する古い建物などが無造作に無視、破壊、解体され、函館市全体の都市としての風格が貧弱になってきた様に感ずるのは私ひとりではないと思う。

そんな危機感から歴風会では議論が交わされてきました。

函館はどんな都市像を目指すべきなのか、市民と議論し将来に伝えていく函館の姿を探り出していきたい。向を定め、運動を進めて参りました。歴風会の内部で「函館の未来を考える部会」を設置し、歴風会として具体的な運動を市民に提起しようということになり、その一つが、プレ・シンポジウムの開催でした。

そして先ず、会員が函館の現状を知るのが第一である、会員の勉強を兼ねた「函館の未来を考える」をテーマに会員のみのシンポジウム（プレ・シンポジウム）を道立函館美術館で開きましたので、その概要をお知らせします。

押しつぶされそうなものを会員の感性のままに提起する。

- ・巨大プロジェクトの事業について、こうあって欲しいとの提言をする。
- ・函館市が残していくべき歴史・景観・歴史的建築物・原点とは何か。
- ・歴史的建造物・風土景観の保存手法としてのナショナルトラスト運動について。
- ・歴風会会員の果たすべき役割について。

2. プレ・シンポジウムの流れ

- ・基調講演 宇野 均氏

（内容）氏が撮り貯めた函館の街の写真やスライドを紹介しながら、函館の将来について感じたことを提起した。

- ・パネルディスカッション

パネラー 浜 島 国四郎・千葉 敬
石 井 満・清 野 きみ
清 水 源太郎・若 山 直

①日 時 平成13年10月20日 13:00～16:00

②場 所 北海道立函館美術館

③プレ・シンポジウムの内容

1. プロローグ

- ・今函館に何が起きているのか、時代の流れの中で

今回のシンポジウムを機に、会のあり方・考え方や今後の方向を打ち出し、また市民と共にシンポジウムを開催し、函館の未来を守る・育てる立場から共に考えていきたい。

（文責 石井 満）

2001年（平成13年度）会 務 報 告（会報No.69に続く）

平成14年3月1日現在

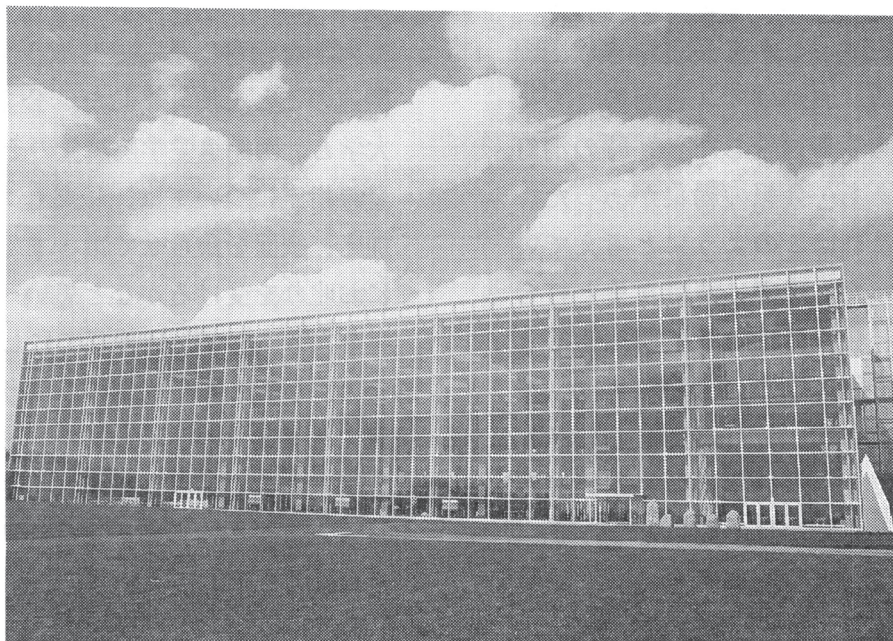
日 時	内 容
8 /	全国町並みゼミ小樽大会開催案内 9/28～30 全国町並みゼミ小樽大会実行委員会
8 / 1	会報 北海道NPO情報8月号 北海道NPOサポートセンター 会報 あした通信 第174号 (財)あしたの日本を創る協会入手
8 / 6	平成13年度定期総会 終了報告 箱館奉行所復元促進期成会 平成13年度 特別展 幕末の箱館と幻の陶磁器9/23まで市立函館博物館五稜郭分館
8 / 7	会報 ぶんぱけん 第107号 入手 大野町文化財保護研究会
8 / 9	平成13年度海外研修視察の実施について8/27締切り 渡島コミュニティ委員会
8 / 17	開港5都市景観まちづくり会議 新潟大会開催 新潟市
8 / 20	会報 北の景観だより「彩(いろどり)」第9号 入手 北海道建設部まちづくり推進課
9 / 1	「全国朝市サミットin函館2001」開催案内 9/27 函館市芸術ホール 会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第175号 入手

日 時	内 容
9 / 4	会報 ぶんぽけん 第108号 入手 大野町文化財保護研究会 平成13年度まちづくり（生活会議）運動東北・北海道ブロック研究集会の開催 10 / 19 青森県浅虫温泉 渡島コミュニティ運動委員会
9 / 7	「いま、北を考える会アクションプログラム展開フォーラム」案内 平成13年9月27日 京王プラザホテル札幌はまなす財団 通信 ネットワーク通信（9月号）北海道地域づくりネットワーク推進協議会 入手
9 / 10	会報 豊島ネット通信 第44号 入手
9 / 11	平成13年度市民活動研究交流会企画・運営団体の募集(財)北海道地域活動振興協会
9 / 17	平成13年度豊かなふるさとづくり全国フォーラムの開催 9 / 25 幕張プリンスホテル 渡島コミュニティ運動委員会 第2回「BUSシンポジウム」の案内と参加要請 10 / 8 午後1時 函館国際ホテル
9 / 21	会報 北海道NPO情報 9月号 北海道NPOセンター 平成13年度コミュニティ運動功労者表彰候補者の推薦について 10 / 15 締切り 渡島コミュニティ運動委員会
9 / 28	第24回全国町並みゼミ小樽大会開催案内 全国町並みゼミ小樽大会実行委員会
9 / 30	会報 自治会・町内会情報誌 まちむら 75 (財)あしたの日本を創る協会
10 / 1	会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第176号 入手 会報 「北海道地域活動だより」 創刊号 (財)北海道地域活動振興協会 入手 会報 北海道NPO情報10月号 北海道NPOサポートセンター
10 / 3	地域活動全道フォーラムの開催 11 / 12 13 : 00 ホテル・ポールスター札幌2 F 主催：(財)北海道地域活動振興協会・(財)あしたの日本を創る協会 会報 ぶんぽけん 第109号 大野町文化財保護研究会 入手
10 / 5	第7回函館市都市景観賞の応募に掛る御礼 函館市都市建設部都市デザイン課
10 / 10	第24回全国町並みゼミ小樽大会実行委員会御礼
10 / 20	「函館の未来を考える」プレ・シンポジウム開催 函館美術館 歴風会
10 / 23	会報 全国町並み保存連盟「連盟だより」小樽ゼミ特集 全国町並み保存連盟 入手
10 / 28	会報 豊島ネット通信 第45号 入手
10 / 31	会報 文化情報 第235号 北海道文化財保護協会 入手
11 / 1	函館市環境審議会委員の公募について 函館市環境部 会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第177号 入手 会報 北海道NPO情報11月号 北海道NPOサポートセンター 入手
11 / 6	会報 土木の文化財を考える会 第5号 土木の文化財を考える会 入手
11 / 9	会報 ぶんぽけん 第110号 大野町文化財保護研究会 入手 平成13年度地域活動入門講座・渡島コミュニティ運動実践交流研究集会開催案内
11 / 11	平成13年12月13日 13 : 00～ 渡島支庁講堂 渡島コミュニティ運動事務局 「函館の歴史を知る会」勉強会 レストラン金森亭 歴風会
11 / 21	会報 渡島コミュニティ 第58号 渡島コミュニティ運動委員会 入手 会報 渡島コミュニティ 第59号 渡島コミュニティ運動委員会 入手 小山内龍遺作展 大野町中央公民館ロビー 12 / 4～11 大野町文化財保護研究会
11 / 30	ネットワーク北海道 地域ネットワーク通信 創刊号 入手
12 / 1	会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第178号 入手 北海道冬新聞 バイオ・リージョン 202号（特別号） 会報 豊島ネット通信 第46号 入手

日 時	内 容
12/18	市民活動全道フォーラム 2002年1月19/20日 札幌市中央区北2条西7かでの2・7 主催：北海道NPOサポートセンター、北海道立市民活動促進センター 会報 北海道NPO情報1月号 北海道NPOサポートセンター 入手
14/1/1	会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第179号 入手 会報 文化情報 第237号 北海道文化財保護協会 入手 会報 ぶんぽけん 第112号 入手 大野町文化財保護研究会
1/12	「男女平等参画の視点から見た民間活動団体の地域づくりに関する実態調査」調査研究報告書 北海道立女性プラザ 入手 会報 渡島コミュニティ 第60号 渡島コミュニティ運動委員会 入手
1/23	会報 豊島ネット通信 第46号 入手
1/30	市民活動団体の運営に関する調査」アンケート 北海道環境生活部生活文化・青少年室生活
2/8	振興課NPO推進係 会報 (財)あしたの日本を創る協会 あした通信 第180号 入手
2/1	環境シンポジウム2002開催案内平成14年2月25日 PM2:00 ホテル函館ロイヤル 主催： 函館市・環境部環境保全課 会報 北海道NPO情報 2月号 北海道NPOサポートセンター 入手 会報 文化情報 第238号 北海道文化財保護協会 入手 会報 ぶんぽけん 第112号 入手 大野町文化財保護研究会
2/4	市民活動情報 Vol. 3 北海道立市民活動促進センター 入手
2/12	アドボカシー・ワークショップ 3月9、10日 北海道環境サポートセンター 市民環境団体（NPO・NGO）の能力強化 主催：NPO法人さっぽろ自由学校「遊」

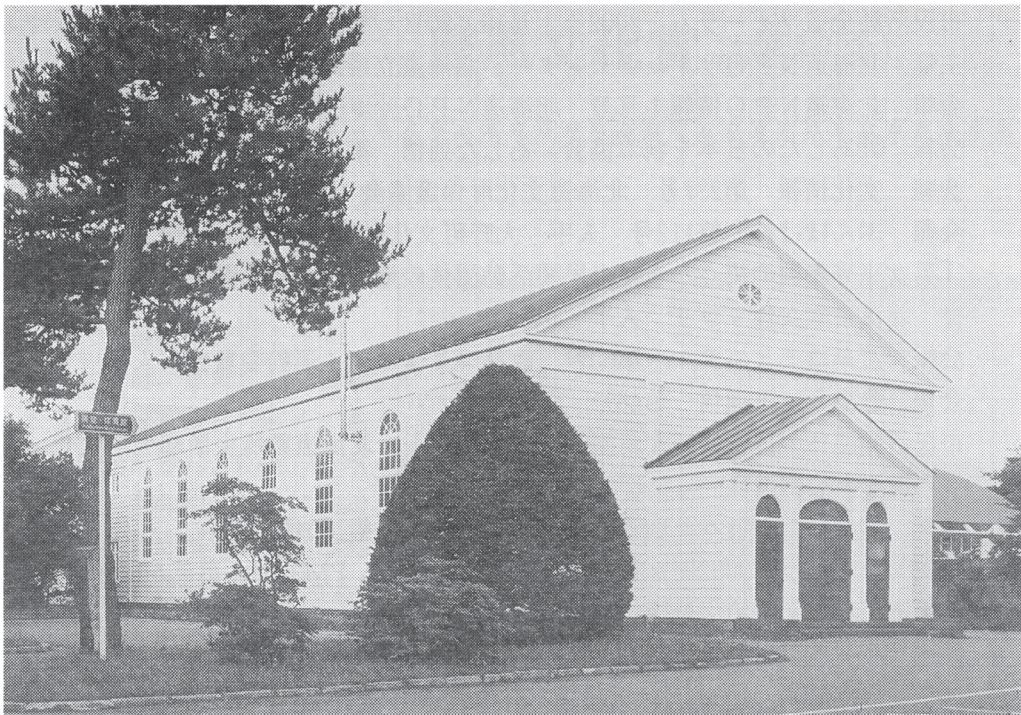
未来大に今年度「道赤レンガ建築賞（最優秀賞）」

建築主・函館公立大学広域連合 開放的な設計空間が評価された



（公立はこだて未来大学より借用、転写）

「函館遺愛学院」 国登録有形文化財に指定された。（下の写真は、遺愛学院より寄贈）



函館市杉並町にある「函館遺愛学院講堂」が国の登録有形文化財に指定されました。淡い色彩の「シンプルな外観と清楚な内装」が評価されたということです。キリスト教メソジスト系の学校創立（1935年）と合わせて新築され、木造平屋一部二階建て、切妻造り、建築面積467平方メートルの建物で宣教師からの寄付金で建てられ、設計はW・M・ヴォリーズ（アメリカ人建築家）です。市内では6件目になります。

○市内登録文化財＝五島軒本店旧館、遺愛女子高校本館、北海道教育大学函館校北方教育資料室、プレイリー・ハウス、函館中華会館、函館遺愛学院講堂

❧ 編集後記 ❧

◇上膳据膳つきの三食、しかも昼寝つきは主婦を夢心地にさせる。おかげで2週間のうちにチトうるさい本を3冊通読した。9時の消灯はきつかった。ああ…会報の編集があった。あれはこうだ、これはこのようにと考えている間に退院となった。現実には清野女史と打合せをしたところ、会報編集は既に間然するところなく、改めて脱帽した。大謝・大謝 清野女史…。 （3月27日記、田尻聡子）

◇みなさまお元気ですか。例年にない速い桜だよりを耳にしながらの70号の編集となりました。さて、70号は恒例の新春チャリティパーティの特集です。会にとっても、市にとって

も大きな仕事になるであろう開港5都市開催関連のことを加えました。公立はこだて未来大学と、函館遺愛学院講堂のそれぞれの受賞・登録指定については、写真とコメントを少し加え、紙面を飾らせて頂きました。会計さんにお叱りを受けるかなと思いつつ、多少、活字を大きくして、12頁だてにしました。

ひよんなことから編集のお手伝い役になり、窮すれば通ずの心境を味わいました。何よりも期日までに原稿を寄せて下さったり、急なお願いに快く応じて下さった関係者の皆さまの御協力を嬉しく思いました。

（4月1日記 清野きみ）